



第 84 回 アメリカの古代文明



1 アメリカの古代文明の特徴

・アメリカの先住民は、かつて（ ）を渡ってアメリカに渡った。
→大航海時代以降、ヨーロッパ人によって（ ）と呼ばれた。

- ・狩猟を続ける部族もある一方で、（ ）・（ ）・（ ）・カボチャ・サツマイモ・トウガラシなどの栽培から、文明を築いた部族もあった。
- ・高度な石造技術を持っていたが、（ ）や車輪の技術はなかった。
- ・牛、馬、ラクダはおらず、リヤマやアルパカを家畜としていた。

2 メソアメリカ文明

☆（ ）（紀元前 13 世紀～紀元前 4 世紀）

- ・メキシコ湾で栄え、絵文字を使用するなど、後の文明に影響を与えたとされる。

☆（ ）（紀元前 1 世紀～6 世紀）

- ・メキシコ高原に栄え、太陽のピラミッドなど多くの建築物をのこした。

☆トルテカ文明（10 世紀～12 世紀）

- ・テオティワカン文明に続いてメキシコ高原に栄えた。



アルパカ

リヤマが荷物の運搬に使われたのに対し、アルパカはその体毛が利用された。かわいい外見だが、怒ると強烈な臭いを発する唾をはきかける。



オルメカの巨石人頭像

オルメカ文明は、アメリカ大陸の古代文明のなかで、最も古い時代に栄えた文明であり、「母なる文明」とされる。ジャガーを信仰していたらしい。



テオティワカンのピラミッド

太陽のピラミッドと月のピラミッドがある。テオティワカンとは「神々の都市」という意味であり、最盛期には 10 万人以上が住んでいたと考えられている。

☆（ ）（14 世紀～1521 年）

都…（ ） ※現在のメキシコシティー

- ・アステカ人により、メキシコ高原で栄えた。
- ・神権政治を行い、アステカ文字を使用した。

☆（ ）（300 年頃～16 世紀）

- ・メキシコやグアテマラにまたがる（ ）を中心に栄えた。
- ・（ ）を建設したほか、二十進法、（ ）、詳細な太陽暦を使用していた。



マヤのピラミッド

密林の中にあり、神殿として使われることが多かったが、天文台でもあった。階段の数に秘密があり、マヤ暦と関係がある。



マヤ文字

マヤ文字は絵文字であるが、表音文字と表意文字が混ざっているらしい。現在解読中である。



アステカの儀式

人間の新鮮な心臓を、神の像に捧げるという儀式を行っていた。黒曜石のナイフで切っていたらしい。

3 アンデス文明

☆ () (前1000年ころ～前200年ころ)
 ・現在のペルー北部で栄え、地下通路が張り巡らされたことで知られるチャビン=デ=ワンタル遺跡をのこした。

☆ナスカ文明 (1～8世紀)
 ・現在のペルー南部で栄え、巨大な地上絵をのこした。

☆ワリ文明 (8～11世紀)
 ・チャビン文明消滅後に、現在のペルーで栄えた。

☆ティアワナコ文明 (1～12世紀)
 ・現在のボリビアにあり、ティアワナコに多数の宗教建造物をのこした。

☆チムー帝国 (12～15世紀)
 ・現在のペルー北部に発展した帝国で、高度な織物や金属工芸の技術を持った。



チャビン=デ=ワンタル遺跡

ペルーの日本大使館襲撃事件の時に、ペルー政府は地下道を掘って大使館内に突入し、人質解放に成功した。その時の作戦名が、チャビン=デ=ワンタル作戦だった。



ナスカの地上絵

テレビなどで見たことある人もいるだろう。何のために描かれたのか謎だが、宗教的な儀式に使用していたのではないかという説が出ている。

☆ () (15世紀～1533年)

都… () ※現在のペルーにある

- ・ケチュア人 (インカ族) が建国し、現在のペルーを中心とするアンデス高原一帯で栄えた。
- ・太陽の化身として崇拜された皇帝は、絶大な権力をふるっていた。
- ・高度な石造りの技術や駅伝制を持っていたが、文字はなかった。
 → () (結縄) という縄の結び目で、数字などを表していた。
- ・クスコの北方には、() という都市を建設した。



インカの石積み

その隙間は、ナイフも通さないほどである。インカの石積みは世界最高水準であり、現在でも再現できない。地震にも非常に強い。



キープ(結縄)

インカ帝国には、キープを扱う専門の役人がおり、人口や納税額などを記録していた。紐の色や、結び目の位置によっても、意味が異なるらしい。



空中都市マチュ=ピチュ

インカに属する遺跡。標高2430mの山上に造られた、石造りの都市遺跡である。何のために造られたのか、いまだに論争が続いている。